

喜多方地方広域市町村圏組合新本庁舎・消防庁舎建設 基本設計書 〔概要版〕



○はじめに

平成31年3月に新庁舎の規模や配置、各階の構成などの基本設計がまとまりました。今後は、この基本設計に基づいて実施設計に着手します。

○これまでの経緯

老朽化の問題 / 耐震性等の問題 / 本庁舎等の狭隘化の問題 / 施設未整備の問題など現庁舎が抱える問題に対応するべく、「喜多方地方広域市町村圏組合新本庁舎・消防庁舎建設基本構想」(以下、「基本構想」という。)の考え方に基づき基本計画を策定し、基本設計を進めてきました。

○基本設計基本方針

基本構想で示された以下の基本方針に基づき、基本設計をまとめました。

【基本方針】“安全(SAFE)”

S：災害に強く持続可能な庁舎 (Sustainable)

A：圏民に開かれた庁舎 (Available)

F：人と環境にやさしい庁舎 (Friendly)

E：機能的効率的な庁舎 (Efficient)

内装計画

1. わかりやすい施設構成

機能ごとにまとまった室配置や、エントランスホール吹抜けによる見通しがよい空間構成により、施設利用者が建物全体を把握しやすい計画とします。

2. わかりやすいサイン計画

施設内のサイン計画については、サインを大きなサイズとすることや、サインを設置する壁とサイン色の彩度差を大きくすることで、施設利用者が認識しやすくわかりやすいデザインとします。



エントランスホール内観イメージ

耐震性能

庁舎は、災害時に災害対策の指揮、情報伝達の役割を担う施設となるため、構造体は「大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。(I類)」を耐震安全性の目標とする。

杭工法

杭工法：既製杭（先端支持力係数 $\alpha = 340$ ）支持杭プレボーリング拡大根固め工法

支持地盤：砂礫層または玉石混じり砂礫層

杭長：19 m, 31 m

杭本数：61本

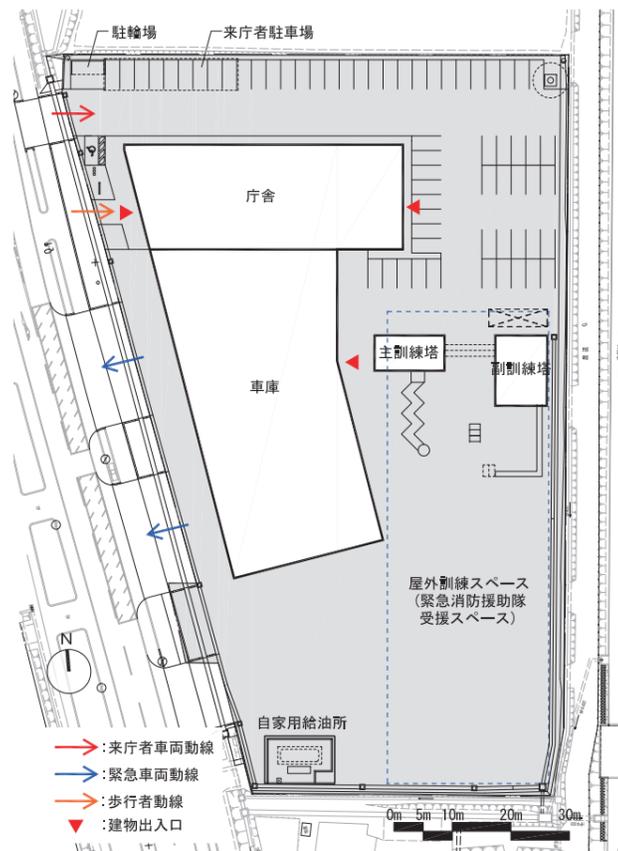
杭径：600mm～800mm (1柱)1本 (一部2本)杭)

特徴：経済性に優れ、施工日数も短い。

雪害対策計画

車庫前・風除室前には井水利用による無散水消雪設備を設置、駐車場内には井水利用の散水消雪を設置し、雪天時にも歩行者動線・車両動線が確保できるように計画します。また、駐車場内は、効果的な除雪作業が行えるようなレイアウトとします。

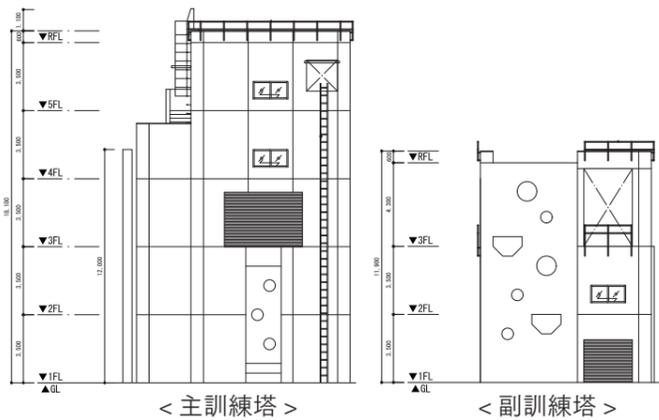
配置計画



配置計画イメージ

防災活動拠点としての機能性と、一般利用者の利便性を併せ持った庁舎実現に向け、以下の方針に基づいた明快なゾーニングによる配置計画としました。

- 十分な広さの屋外訓練スペースを確保します。
- 緊急車両と来庁車両の動線は交錯しないようにします。
- 緊急車両の出動動線は、速やかに出動できるようにします。
- 来庁者駐車場・駐輪場と庁舎玄関はできる限り近接させます。
- その他
 - ・敷地南側に自家用給油所（20kl）を設置
 - ・車庫前スペースは無散水融雪により、冬期の出動しやすさに配慮
 - ・駐車台数は64台（来客駐車場9台 / 身障者駐車場1台 / 職員用駐車場54台）を敷地内に確保
 - ・各種訓練が可能な訓練塔の整備（火災、救助、避難訓練等）



訓練塔イメージ

計画概要

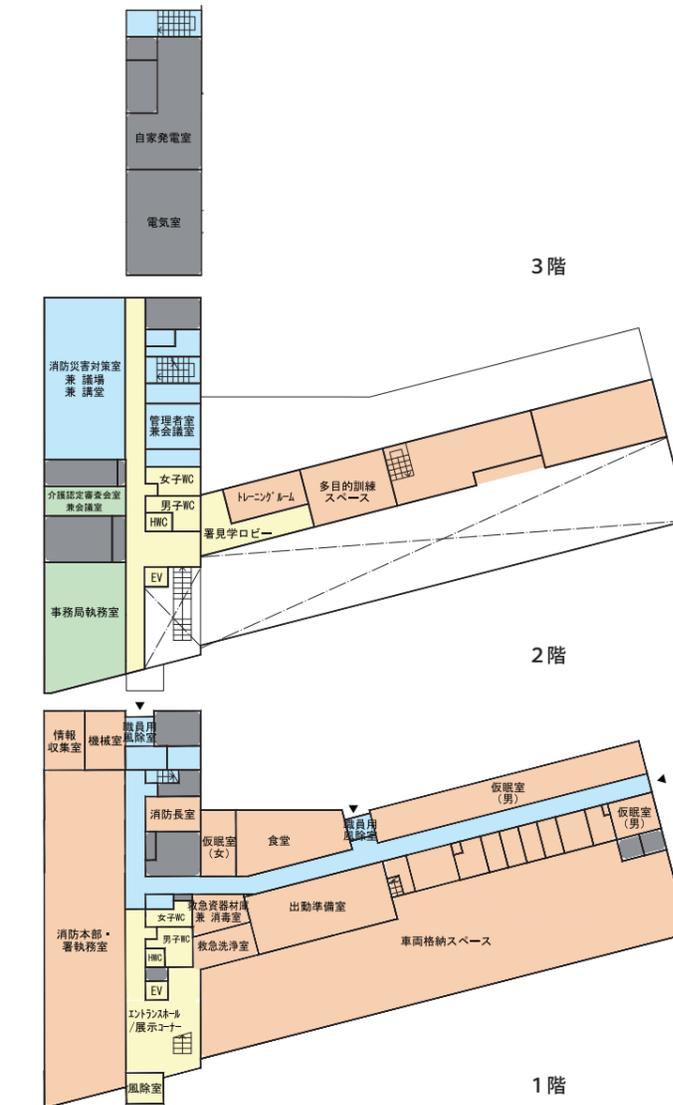
敷地概要	建設地	喜多方市関柴町上高額字割田、西原地内
	敷地面積	9,001㎡
	区域区分	都市計画区域内
	地域地区	用途地域：なし 防火地域：なし その他の区域： 浄化槽設置区域、喜多方市景観計画区域

建築概要		階	構造	床面積
	本庁舎棟・車庫棟	地上3階	RC造	3,332.78㎡
	主訓練塔	地上5階	RC造	324.15㎡
	副訓練塔	地上3階	RC造	271.20㎡
	自家給油所	地上1階	S造	

※数値等は実施設計で変わる場合があります。

平面計画

職務の効率化や、出動時間の最短化に配慮した機能的な平面計画とします。



平面計画イメージ

3階

- ・諸機械室は3階にまとめて計画します。南側に集約して配置することで、まとまった大きさの屋外機置き場を確保します。

2階

- ・組合事務局関連の諸室は2階に集約して配置します。
- ・消防災害対策室兼議場兼講堂はスクールタイプで80人以上収容できる広さとし、可動間仕切りにより個別の会議室としても利用可能な計画とします。
- ・署見学ロビーは車両格納スペースや訓練塔を望める場所として整備します。

1階

- ・消防本部と消防署は出動時間を最短にするために、車両格納スペースと同一の1階に配置します。
- ・消防本部と消防署は、業務上兼務職員が多いことから、執務室を隣接させ効率的な職務が可能な計画とします。
- ・仮眠室等の待機スペースは、出動準備室に近接して配置することで、出動時間の最短化に配慮します。

立面・断面計画

1. 消防機能を一望できる圏民に開かれたデザイン

西側外観は、庁舎棟と車庫棟を繋ぐような門型のデザインとすることで庁舎としての一体感と正面性を持たせます。また、エントランスホール・署見学ロビーは消防機能を一望できる空間とし、圏民に開かれた庁舎を実現します。

2. 機能に応じた効果的なデザイン

開口部を設ける必要性が少ないエリアは開口量を極力減らしながらも、執務室などの十分な採光を確保したいエリアは連続した開口部とするなど、各機能に応じた効果的なデザインとすることで経済的にも配慮した計画とします。

3. 環境と意匠の調和したデザイン

冬期の堆雪を考慮した、壁設置型の太陽光パネルを3階南側壁面のまとまったスペースに設置することで、十分な日射量を確保できる計画とします。また、LED照明による電力削減や災害時の業務継続に配慮し、積極的な自然採光 / 井水を利用した車庫前の無散水融雪等、環境調和型デザインを検討します。